

血液透析患者における血圧・ドライウェイトの管理指針（簡易版）

（無断の掲載、転写、引用、改変を禁止）

2022年3月30日作成

血圧（透析前・中・後、家庭）の総合的評価による異常あり
透析前血圧は 120～160 mmHgが望ましい

総合的評価によるドライウェイトの適正化

患者によっては体液量と相関しない指標もあり、心エコーを含む複数の指標で判断

透析前胸部XP：経時的な心胸比変化（男性50%以下、女性53%以下）、肺うっ血なし
末梢浮腫なし（低アルブミン血症に注意）

透析後心エコー：下大静脈径6～10 mm、その他の指標
（透析前、非透析日実施では、体液量増加分を考慮）

透析後ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド（HANP）：50～100 pg/mL

減塩・水分制限の強化、起立性低血圧の確認

必要に応じて透析時間延長や追加透析

血圧高値

血圧低値

降圧薬の開始・増量*

昇圧薬の開始・増量

* 透析低血圧対策として、降圧薬をなるべく透析終了後の夕～眠前に投与する。
α遮断薬とα2受容体作動薬は起立性低血圧を起こしやすいことに注意する。